



## 環境方針

当社は、地球環境と自然保全に努め、より安全な製品を提供し続けて『環境のカンボウ』を目指します。

### 『環境基本方針』

当社は産業資材、工業資材、生活資材及びその他の樹脂加工繊維製品の生産を中心とした企業活動において、環境負荷の低減をめざし、以下の方針に則って行動します。

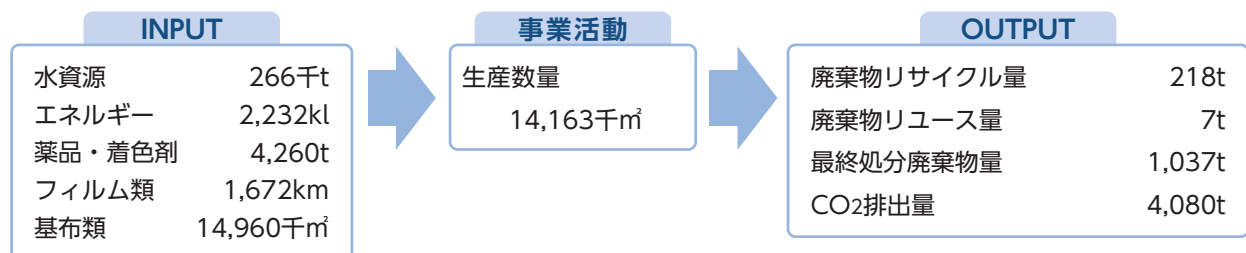
- 1 当社は、地域社会と協調し、対話を大切にし、環境管理活動を通じて社会に貢献します。
- 2 当社の事業活動において、省資源、廃棄物の削減、環境負荷物質の管理を行い、汚染の予防を含めた環境保全と改善活動を継続的に推進します。
- 3 定期的な内部環境監査の実施により、環境管理活動の実施状況と結果を確認し、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。
- 4 当社の事業活動に関係する環境関連法規制及びその他の要求事項を遵守します。
- 5 当社の事業活動にかかわる環境側面について、環境目的及び目標を設定します。また、環境目的及び目標は、環境方針と共に、年一回見直しを行います。
- 6 環境方針は、環境方針書として文書化し、環境マネジメントシステムにより実行、維持します。
- 7 環境方針は、全従業員に周知認識し、方針に則って行動するように、全従業員に対する教育、訓練を実施します。

本環境方針は、インターネットを含め全ての人に公表します。

改定 2020年4月1日

## 事業活動における環境負荷(福井工場)

当社では、事業活動におけるエネルギー・資源の使用量 (INPUT) と環境への排出量・廃棄物量 (OUTPUT) を正確に把握することにより、総合的に環境負荷の低減に努めています。



## 環境負荷低減製品開発への取り組み

近年、お客様からの環境配慮の要望は新製品開発のみならず、これまでに提供した製品の仕様変更といった形でも増えています。環境推進地域である欧州において様々な化学物質の規制が進められている中、材料選定の見直しや、バイオマス素材の使用など、グリーンな製品設計を進めています。

今後もカンボウプラスでは、様々な要望に合わせて使用する材料の変更を進めるとともに、安全安心の観点からグリーン材料での製品開発に取り組んでいきます。



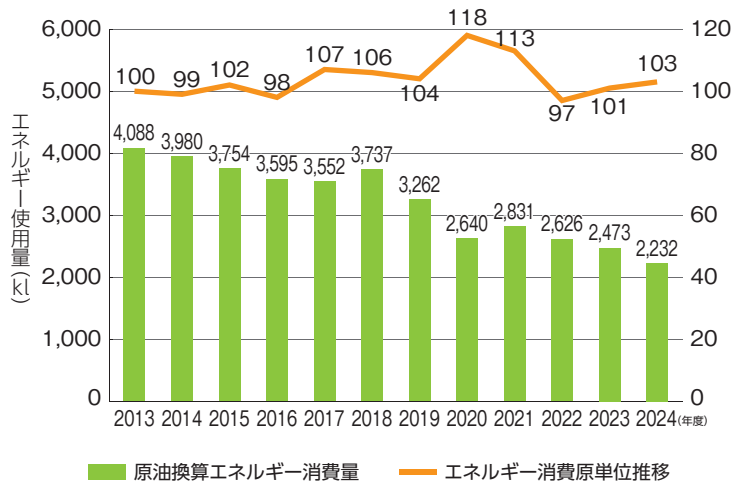
## エネルギー消費量とCO<sub>2</sub>排出量

昨年度は生産設備、製品倉庫のLED化を実施しました。福井工場の照明のLED化は92%となりました。また送風ファンの稼働時間の見直し、モーターのインバータ化を図り使用電力の削減を行いました。蒸気設備関係では蒸気使用量が増加する冬季前にスチームトラップの点検、交換を実施しました。生産数量は計画以上の結果となりました。そのため2023年度に比べ生産量（㎡数）は約4.1%増となりました。

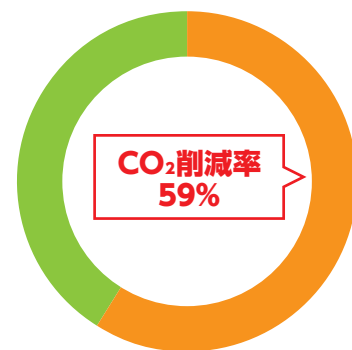
エネルギー消費原単位では、前年より約2.4%増加、CO<sub>2</sub>排出量につきましては、約7.6%の削減となりました。

引き続き照明のLED化、保温材の補修、スチームトラップの状態監視を継続実施致します。また、省エネ設備への更新、燃料の転換についての調査・研究についても引き続き進めます。

エネルギー使用量及び原単位



CO<sub>2</sub>排出量削減率



2013年度比

(注) 2013年度を100とした場合の指数表示となっています。

## 地球温暖化防止への取り組み

地球環境を考える上で、企業のCO<sub>2</sub>排出量削減への取り組みは非常に重要な役割を担っています。

CO<sub>2</sub>排出量削減の取組として、照明のLED化（水銀灯含む）・省エネ設備導入・CO<sub>2</sub>フリー電力の活用・環境負荷低減商品の開発・廃棄物削減の取り組み・クールビズ・ノーマイカーデーなどの取組を従業員一丸となって推進しています。

2023年8月よりCO<sub>2</sub>フリー電力を導入しております。

CO<sub>2</sub>フリー電力を使用することにより、CO<sub>2</sub>を排出する電力を使用する場合と比較すると2023年度で約1,223t、2024年度で約1,847tのCO<sub>2</sub>排出量を抑制することができております。



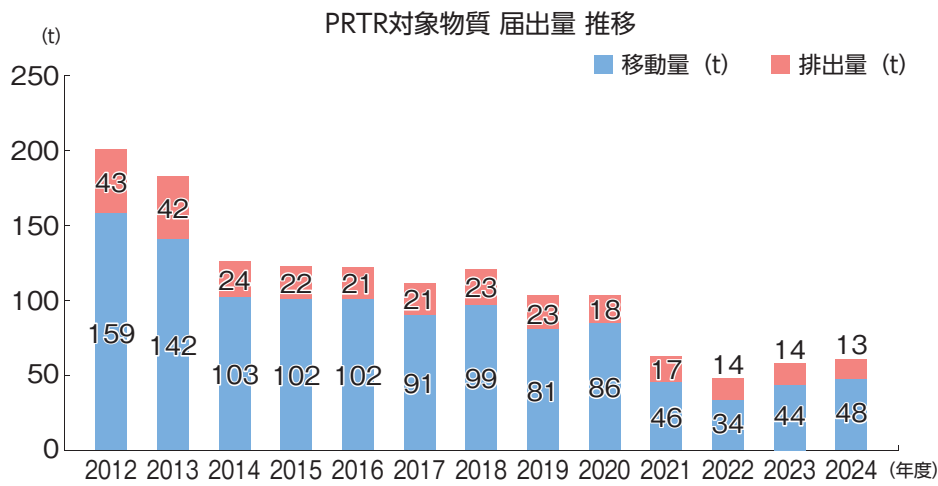


## PRTR法への対応

PRTR制度では第一種指定化学物質の環境へ排出される量（排出量）及び対象物質を含む廃棄物が事業所外へ移動される量（移動量）について届け出ることになっています。

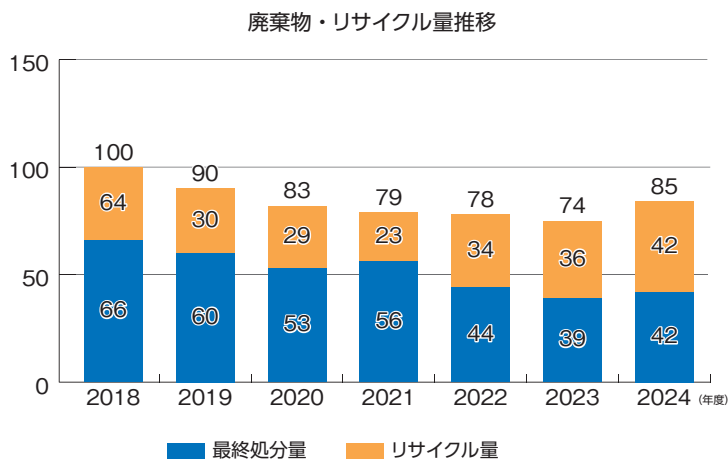
2024年度のPRTR対象物質の排出量及び移動量の届出合計量は2023年度より増えましたが、これは生産増による影響です。

2020年から移動量が減っていますが、これは対象物質のひとつである可塑剤フタル酸ビス（2－エチルヘキシル）の置き換えが進んだためです。なお、本年からはアンチモンおよびその化合物の置き換えも進め、更なる低減を目指します。

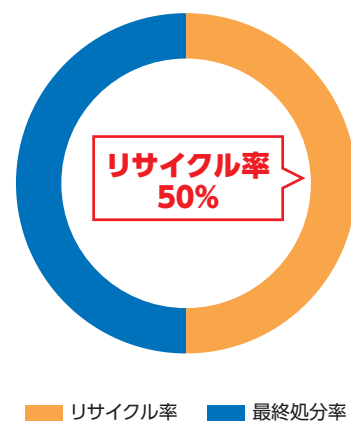


## 廃棄物削減への取り組み

昨年度より生産量が増加したため、廃棄物の総量も増加しましたが、リサイクル・リユースへの取り組みの結果、リサイクル率は向上しました。今後も、再生が困難な廃棄物の削減と再生の取り組みを推進していきます。



2024年度リサイクル率



(注) 2018年度を100とした場合の指数表示となっています。



## グリーン推進活動

2024年度も「第15回ニチバン巻心ECOプロジェクト」および「エコキャップ回収運動」に参加しました。巻芯は、ニチバン株式会社を通じて段ボールに再生することで得られる利益が森の植林活動に役立てられ、ペットボトルキャップは、特定非営利活動法人エコ・ワクチン協力会を通じて、プラスチックとして再利用することによって得た利益がワクチン購入代金に使用されます。今後も継続して活動を行っていきます。



当社では事業所周辺の美化活動を継続的に実施しています。大阪本社では、2025年2月に「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」に参加し、空き缶や吸い殻などのゴミ拾いを行いました。



本社ビル前清掃



東京支店ビル前清掃



福井工場内清掃